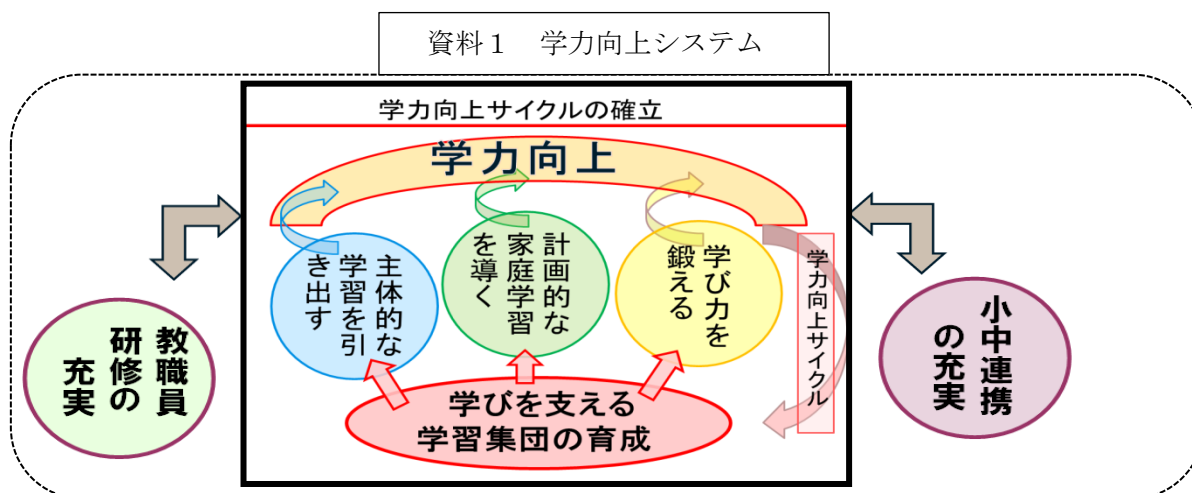


培良中学校の学力向上の取組

1 学力向上システム

学力向上のため、学校が組織的・総合的に様々な取組をするために構築した、本校の学力向上の考え方の基本イメージである。その中で中核をなすのが「学力向上サイクル」(資料1)である。本校の学力向上のための取組は、すべて学力向上サイクル内に位置付けられ、サイクルの中で、成果と課題が検証され、さらに改善が図られている。



(1) 学びを支える学習集団の育成

全国学力学習状況調査や京都府の学力診断テスト等の質問紙や本校独自の生活アンケート、そして、年2回生徒全員対象で行うQ-Uを通じて、生徒の個々の状態や学級の状況を、単に担任が個人的・感覚的にとらえるのではなく、全校で客観的にとらえ、エンカウンター等の学級集団作りを行っている。さらに教科を越えて、4人組の学習集団作り等(資料2)を進め、深い学び、協働的な学びができる素地を作っている。



資料2 4人組の学び

また、生徒会による、自分たちの生活を改善させるための諸宣言(いじめ追放宣言、スマホ・ネット宣言)も、より良い学習集団形成に寄与している(最終ページ 資料3)。

(2) 主体的な学習を引き出すための授業研究・授業改善

付箋を利用した少人数の分散会を基本に、教職員による教科の壁を越えた「培良スタイルの授業研究会」で、授業改善を進めている。(資料4)その中で、授業のやり方を標準化する「培良学習スタンダード」(資料5)を作り、全教員がスタンダードに従い、授業を進めている。



資料4 培良スタイル授業研究会

資料5

培良中学習スタンダード

【授業のはじまり】

- ・ベル準を守る。
- ・号令の合図で、しっかりとあいさつをする。
「起立」「気をつけ」「礼」「お願いします。」「着席」
- ・授業の始まりに、この1時間のめあてを知る。

【授業中】

- ・授業中は私語をしない。
- ・姿勢を正して授業を受ける。
- ・発言する時は、手を挙げ、指名されたら発言する。
- ・指名されたら「はい」と返事をし、発表は立って発表する。
- ・発言者の発言をしっかりと聞く。
- ・板書は、ていねいにノートに写す。
- ・「大切だ」と感じたこともノートに取るように心がける。

「……です。」
「……と思います。」
「わかりません。」

ていねいな言葉で、大きな声で、

【授業の終わり】

- ・1時間の振り返りをする。
- ・終わりのあいさつも、号令の合図でしっかりと行う。

(3) 計画的な家庭学習を導く

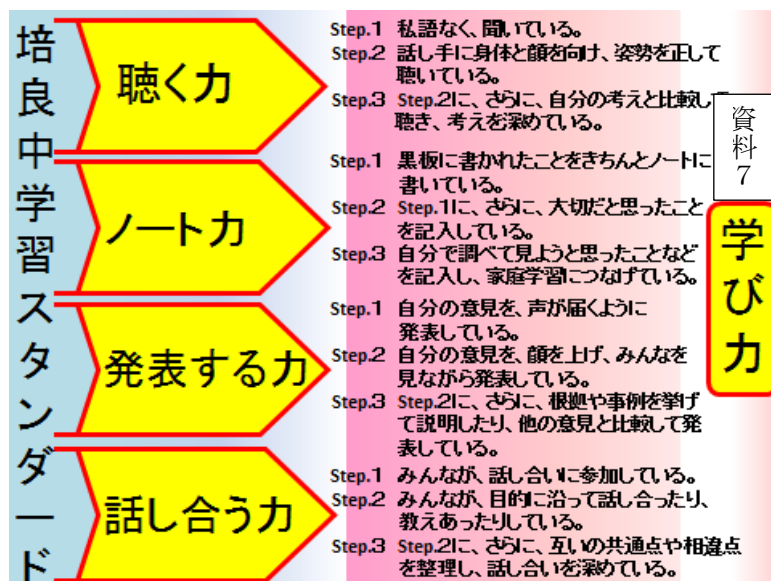
学校を上げて、自主学習ノート(毎日見開き1ページ分の家庭学習)(資料6)の取組を行った。担任・学年で点検、コメント記入、優秀者の表彰、お手本になるノートの掲示等を精力的に行い、「家庭学習を全くしないか、しても30分以下の生徒」の割合は、数年前の30%以上から5%にまで減った。毎日、家庭で、机の前に座り学習するという習慣作りに、大いに役立った。



資料6 家庭学習ノート

(4) 学び力を鍛える(資料7)

「学び力」というのは、生徒が自分自身で自分の勉強方法を振り返る、メタ認知を育てるための指標である。今年度は4つの学び力(聴く力、ノート力、発表する力、話し合う力)の内、その授業で主に何を意識すればいいかを、授業の「めあて」とともに生徒に示している。



2 特色ある行事・取組

(1) 宿泊オリエンテーション(資料8)

小中連携において、あえて中学校入学という節目を利用し、段差を設けて、それを越えさせることで、成長を促す取組である。入学式から1週間以内に取り組む。「時間を守ること」や「話の聴き方」、「学習の仕方」等、中学生として身に付けることを徹底的に教え込み、実践させる。子どもから大人になるための一種のイニシエーションという位置づけをしている。

宿泊の計画や指導は、1年の学年だが、実際の講座は、全校で分担し、組織的に取り組んでいる。新入生だけでなく、転入してきた教職員も、この取組を通じて、培良中学校の指導や取組について研修できる。

資料8 宿泊オリエンテーション プログラム内容

- | | | |
|------|-------------|--------------------|
| (1) | プログラム①【35分】 | 校長訓話 |
| (2) | プログラム②【50分】 | 校歌練習(音楽科) |
| (3) | プログラム③【50分】 | 培良スタンダードについて(研究主任) |
| (4) | プログラム④【50分】 | スタンダードに沿った授業(教科担当) |
| (5) | プログラム⑤【50分】 | スタンダードに沿った授業(教科担当) |
| (6) | プログラム⑥【50分】 | 集団行動(体育科) |
| (7) | プログラム⑦【90分】 | 宿題・家庭学習(学年) |
| (8) | プログラム⑧【30分】 | 特別支援教育(特別支援教育担当) |
| (9) | プログラム⑨【50分】 | 非行防止教室(スクールサポーター) |
| (10) | プログラム⑩【50分】 | 進路学習(進学主任) |
| (11) | プログラム⑪【50分】 | 学校生活について(生徒指導主任) |
| (12) | プログラム⑫【20分】 | 宿泊オリエンテーションのまとめ |

(2) 外部講師を招いた多様な総合的な学習の時間

培良中学校の生徒は経済的に厳しい家庭が多く、体験や経験が少ない。各種調査でも地域への関心であったり、社会のニュースへの関心などが軒並み低い。そこで、総合的な学習の時間には、

できるだけ多方面の分野の、その道の専門家を呼び、多くの分野に触れさせ、広い視野が持てるよう促している。それぞれの分掌の教員が講師と対応し、そのことで教職員の力量も伸ばしている。

3 研究・実践の成果

(1) 授業の落ち着き、様々な授業改善の試み

培良中の教職員は教職経験年数の短い者が多い。しかし、学習スタンダードという基礎に立脚しながら、様々な授業改善にトライしている。その効果もあって、生徒は非常に落ち着いて学習に取り組み、徐々にではあるが、各種テストの結果にも表れてきている。

研究マインドが旺盛で、しかもみんなで考え決めたことは、しっかりと実践しようとする教職員の姿勢が、生徒にも伝わっていると感じている。

(2) 家庭学習の定着

前述の家庭学習の時間の調査の通り、家庭学習の習慣づけについてはかなり定着できた。さらに、今まで苦手であった「自分で計画を立てて学習している」「予習」「復習」という項目も、この取組を通じて、全国や府平均を大きく上回るようになり、自主的に学習する機運が育ってきている。

(3) 自己肯定感、自己有用感の醸成

「自分には良いところがある」という項目は入学時には低いですが、中学校で様々な取組を行う中で、3年時には大きく伸びて、全国や府平均を超えるようになってきている。「将来の夢や希望」「学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある。」等の項目も、全国や府平均を越え肯定的に答えている。学習集団を育て、学力を伸ばす取組が、自己肯定感を大きく伸ばすことに寄与したと考えられる。

4 今後の課題

職員の異動がある中で、研究の成果をいかに継承し、さらなる改善を進めていくかが、今後の大きな課題である。特に、深い学びに向かうための学習集団の育成を図るため、今年度、特別活動を見直して、再構築している。学級づくりで大きな役割を果たしているQ-Uも、来年度以降、予算的に実施が厳しいことも予想される。

また、次期指導要領でアクティブラーニングが注目を浴びる中、学習スタンダードの中に、主体的・協働的学びをどう落とし込むかも今後の課題である。



資料 9 聴く時は身体と顔を向け聴く。



資料 10 課題は自分自身で集中して。

資料3 培良中学校生徒会 「スマホ・ネット宣言」

- 1 自分で決めた時間を守り、夜10時30分以降は使用しない。
目安は2時間まで。
- 2 ながらスマホを絶対にしない。
- 3 他人が傷つくようなことはせず、相手を尊重する。
- 4 他人の個人情報を無断で公開せず、自分の情報の管理を徹底する。
- 5 年齢制限のかかっているサイトにはアクセスしない。
- 6 ネットに依存しない生活を心がける。

培良中の生徒として上記の6か条を常に意識し、リアルなコミュニケーションを大切にしながら健全な学校生活を送る事をここに宣言します。

平成27年11月5日

京田辺市立培良中学校生徒会

京田辺市立培良中学校生徒会 「いじめ追放宣言」

< 前 文 >

一人ひとりが「自分らしく」いられる学校。3年間楽しく学べる学校。そんな学校を私たちは目指します。そのような学校への初めの一步として、みんながいじめについて身近な問題として真剣に考えて、苦しんでいる人を見つけて、いじめをくいとめていくことを決意し、ここにいじめを追放することを宣言します。

平成26年1月30日

一、互いのことを認め合い、尊重する。

どんな人も、あるがままに受け入れられる広い心を持つ。人にはそれぞれの考え方があり、それは個性でもある。その違いを認め合いながら、他者を思いやることが大切。

二、見て見ぬふりをしない。

目の前で起きていること、それが自分にとっていじめであるなら、自分でできることをすることが大切。

たとえすぐに止めることができなくても、いじめられている人の心に寄り添うことで、少しでも苦しみから逃れる時間をつくることができる。

三、いじめをしない、加担しない。

一人ひとりが、自分は「いじめはしない。」「いじめに加担しない。」と決意して、特に暴言を言わない、暴力をしないことを実行すれば、いじめは起きなくなる。

そして、みんなが安心して学校生活を送ることができる。